

平成29年度

豊田スタジアムを生かした  
まちづくり特別委員会

調査研究結果中間報告書

世界一熱いラグビーを届けよう。

**TRY FOR ALL**  
**RUGBY 2019 AICHI・TOYOTA**

平成30年3月

豊田市議会

【目 次】

1	設置の経過	1
2	調査研究事項	2
3	委員会等開催状況と内容	3
4	調査研究結果	5
5	提言	9
6	むすびに	11
	【添付資料】	13

平成30年3月7日

豊田市議会議長  
三 江 弘 海 様

豊田スタジアムを生かした  
まちづくり特別委員会  
委員長 山 口 光 岳

## 豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会調査研究結果

### 平成29年度報告書

本委員会は、平成27年5月15日の本会議において設置されて以来、委員会の設置目的を達成するため、調査研究を進めてきた。

これまでの経過と平成29年度の活動について、その結果を報告する。

#### 記

#### 1 設置の経過

(1) 平成27年3月2日、2019年(平成31年)に日本で開催されるラグビーワールドカップの開催自治体の一つに豊田市が決定された。

そして、平成27年5月15日の本会議において、大会会場となる豊田スタジアムを生かしたまちづくりについて、市議会で調査研究を行うために本委員会が設置された。

(2) 平成29年5月17日の本会議において、次の通り、11名の委員が選出された。

浅井保孝 太田博康 古木吉昭 作元志津夫 杉本寛文 田代 研  
深津真一 水野博史 宮本剛志 山口光岳 吉野英国

(3) 平成29年5月17日に開催された委員会において、委員長に山口光岳、副委員長に古木吉昭をそれぞれ互選した。

## 2 調査研究事項

### (1) 設置目的（平成27年度から引き続き）

ラグビーワールドカップ2019™の国内会場の一つである豊田スタジアムを生かし、本市として大会成功、広域スポーツ振興、地域活性化に寄与し、国際都市としての更なる飛躍、発展等を目指し調査・研究を行う。

### (2) テーマ・調査研究事項

- ①多くの来訪者を呼び込むための戦略
- ②来訪者を迎えるための環境整備
- ③大会期間中の交流、おもてなし
- ④大会を契機としたまちの魅力向上
- ⑤大会を契機とした効果、施策

### (3) 調査期間

平成29年5月17日 ～ 平成30年3月2日



豊田スタジアム、矢作川、市街地を望む

【豊田スタジアム】	完成	2001年7月21日
	メインスタンド	12,500席
	サイドスタンド	14,500席
	バックスタンド	18,000席
	座席数 計	45,000席

(内 可動席2,438席はラグビー時には使用しない)

### 3 委員会等開催状況と内容（平成29年度分）

回	開催日	内 容
1	平成29年 5月17日（水）	・ 正副委員長の互選について
2	5月25日（木）	・ 海外視察について ・ 海外視察調査項目・プロポーザルについて ・ 調査研究テーマについて ・ 行政視察について
3	5月31日（水）	・ 海外視察提案書の内容説明及び質疑 ・ 旅行社の選考について
4	6月15日（木）	・ 調査研究事項について ・ 年間活動スケジュールについて ・ 海外視察に関する要望事項等について ・ 街頭におけるPR活動
5	6月26日（月）	・ 海外視察行程（案）について ・ 海外視察に関する準備事項について
6	7月21日（金）	・ 海外視察に関する行程（案）について ・ 海外視察に関する提出書類について 【意見交換】ラグビーワールドカップ2019 推進課 ・ ラグビーワールドカップ2019™に向けた取組について
7	8月22日（火）	・ 海外視察に関する行程（案）について ・ 視察ノート等について ・ 視察報告書について
8	9月 7日（木）	・ 海外視察に関する行程（案）及び視察先事前研修について ・ 海外視察に関する注意事項について ・ 視察先事前質問調査票について ・ 視察報告書担当割（案）について ・ 委員の派遣について
9	9月14日（木）	・ 海外視察に関する行程及び提出物について ・ 視察調査ノート（案）について
10	9月22日（木）	・ 海外視察に関する最終行程等について ・ 海外視察に関する最終確認事項について

-	9月26日(火) ～10月5日(木)	・海外視察の実施 フランス、スペインにおいて、世界的スポーツイベントの開催準備、大会を契機とした取組及び大規模スタジアムを生かしたまちづくり等を視察
11	10月12日(木)	・海外視察における意見交換について ・今後の進め方について ・行政視察について
-	11月7日(火) ～11月9日(木)	・行政視察の実施 京都府京都市「外国人受入環境整備の取組」 兵庫県神戸市「ラグビーワールドカップ2019™大会成功及び大会を契機としたまちづくりの取組」 福岡県福岡市「ラグビーワールドカップ2019™大会成功及び大会を契機としたまちづくりの取組」
12	11月21日(火)	・視察後の意見交換について
13	12月20日(水)	・海外視察報告書(案)について ・今後のスケジュールについて
14	平成30年 1月24日(水)	・海外視察報告書(案)について ・調査研究結果中間報告書(案)について
15	2月14日(水)	・調査研究結果中間報告書(案)について
16	3月 2日(金)	・調査研究結果中間報告書(案)について

## 4 調査研究結果

### (1) 国内視察調査

#### 京都府京都市

##### 外国人受入環境整備の取組

#### (1) 事業概要

- ・「京都観光振興計画 2020」を策定し、目標を観光消費額＝1兆円、外国人宿泊客数300万人、再来訪意向・おもてなし度80%以上を掲げている。その実現に向けて、「人づくり・まちづくり」「魅力の向上・誘致手法」「魅力の発信・コミュニケーション」「MICE戦略」を柱に25施策・191事業に取り組んでいる。
- ・「不満を解消し、満足を伸ばす」をテーマに、毎年「京都観光総合調査」において、大規模なアンケートを実施し、結果を施策に生かし、クレーム「ゼロ」を目指している。
- ・京都市では、国の特区を活用し、歴史・文化・産業等の外国人旅行者の京都に対する好奇心やニーズに応えられるよう、京都市独自の専門研修を受けた京都専門通訳ガイド「京都市ビズターズホスト」を育成し、市内インバウンドビジネス拡大、オペレータ通訳（多言語電話通訳サービス）の取組などサービス及び外国人旅行者の満足度向上を図っている。

#### (2) 評価

- ・観光の名所として、国内外、特に外国からの観光客には人気が高い京都であり、観光への取組も十分と考えられる中で、観光客の質や層の変化により、特に外国からの観光客については、従来どおりでは対応しきれない状況がおきている。そうした新たな課題が出てきている中で、観光関係者だけではなく、市民を含め、新たな展開がされていたことは参考となった。
- ・外国人宿泊客数が5年前倒しで、また観光消費額が4年前倒しで目標を達成している点など、各種施策の創意と努力が伺える。

#### (3) 本市への反映

- ・観光は単なるショーではない。安全・安心、危機管理や人の育成など、異文化の人やものが相互に密接に融合・連携して取り組む。
- ・観光に関するアンケート調査を実施し、結果を施策に生かして、クレームゼロを目指して取り組む。
- ・従来の魅力の向上に加えて、新たな魅力を創り出す。
- ・富裕層をターゲットにした情報発信に取り組む。
- ・観光の経済効果が市民生活の向上に繋がるように取り組む。
- ・言語、生活習慣などの違いからくる課題解決に向けて、多言語対応や、分かりやすいイラスト表示などを有効に活用する。

#### (4) 意見

- ・京都市は伝統的な文化、産業と共に多くの歴史的な観光施設を有し、国内外から多くの観光客を迎えている実績が、観光施策に生かされている。しかし、外国からの観光客の増加に伴い、新たな課題が生じていることも認識できた。
- ・観光が市民全体の生活向上に直結することは難しいが、大切なことと考える。

## ラグビーワールドカップ 2019™ 大会成功及び大会を契機としたまちづくりの取組

### (1) 事業概要

- ・テロ対策等セキュリティ安全対策、交通輸送、ホスピタリティの実施、魅力あるファンゾーンの設置、ボランティアプログラムなど幅広い分野において各種基本計画を検討、立案、実施している。
- ・プロモーション活動として、大会の盛り上がりを市民と共に醸成していくコミュニケーションスローガンの作成、兵庫県や神戸製鋼と連携した取組、国際スポーツフェスタや出場国の食や文化の紹介イベントの実施、商店街の協力による都市装飾の拡大など、幅広い取組を行っている。
- ・ラグビーの普及啓発活動として、タグラグビー指導者養成研修大会、神戸製鋼タグラグビー教室を開催し普及啓発活動に取り組んでいる。
- ・事前チームキャンプ、公認チームキャンプの誘致活動のため、オーストラリアラグビー協会を訪問するなど積極的な活動を行っている。
- ・欧州を中心に導入されている新技術のハイブリット芝をノエビアスタジアム神戸に採用。
- ・「準備委員会」から「推進委員会」へ参画団体を拡充し、県・各種機関・団体と緊密な連携を図っている。
- ・おもてなしの実現に向けて、ホスピタリティ基本計画を策定し、神戸らしいオンリーワンのホスピタリティの実現を目指している。

### (2) 評価

- ・大会開催に向けての各種の基本計画が策定され、それを基にプロモーション活動として多様な取組を展開し、実績もできている。
- ・未来の神戸のラグビー像として、三つの視点から未来計画がしっかり立てられており、大会を契機とした未来ビジョンを明確に示している。

### (3) 本市への反映

- ・ラグビーワールドカップ 2019™の成功に向け、神戸市が「神戸流おもてなし」を掲げて取り組んでいるのと同様に、他の開催都市とは違った豊田市ならではの「豊田流おもてなし」を創出する。
- ・大会の盛り上がりには、ファンゾーンの効果ある設置計画を策定する。
- ・神戸市においては、都市装飾として、PR 動画放映、横断幕、バナーと各種のPR 活動が展開されており、小中学校のフェンスにも横断幕を設置するなど、本市においても、機運醸成のためさらなる多様な活動を展開する。

### (4) 意見

海・山・街があり、観光地として従来から多くの観光客が訪れている神戸市であるため、それを生かした大会成功への計画、また計画に沿った取組が確実に実施されていることを感じた。



ラグビーワールドカップ 2019™ 大会成功及び大会を契機としたまちづくりの取組

(1) 事業概要

- ・福岡での試合実施国について、県・市と共同して現地プロモーションを行い、試合日以外にも福岡に滞在してもらえる取組を予定している。
- ・大分県、熊本県と連携し、観戦者に3県を周遊するモデルツアーの企画を検討している。
- ・大会期間中にシティドレッシングやラッピングバスの運行、公共交通機関の案内表示の設置や案内ボランティア（外国語対応含む）の配置を検討している。
- ・平成28年度にライオンズクラブ世界大会を開催し、大規模な語学ボランティアの募集・運用を行っている。ラグビーワールドカップにおいてもその経験を活かし大会開催中のボランティアとして従事してもらう計画を検討している。また福岡マラソン等のスポーツボランティアにも、スタジアム沿道の交通整理等、スタジアム周辺での業務に従事してもらうことを検討している。
- ・姉妹都市とこれまでの交流実績をベースとしたイベントの開催や交流事業の実施等を検討している。
- ・ラグビーワールドカップ 2019™以降予定されている、東京オリンピック・パラリンピック、2021年世界水泳選手権などの大規模国際スポーツ大会の開催を通じて都市ブランドの向上を図っている。

(2) 評価

- ・九州地方では福岡県、大分県、熊本県の3県でラグビーワールドカップが開催されることで、スタジアムやその周辺にかかわる大会への環境整備だけでなく、3県が連携し多くの来訪者を呼び込むため、観戦者への対応も含め幅広く検討がされている。
- ・大規模な国際大会の開催実績、また今後も開催することが決定していることもあり、それらの大会を契機とした魅力ある福岡市のまちづくりの振興が伺える。
- ・多様なPR方法で来訪者を迎え入れる環境整備に取り組んでいる。

(3) 本市への反映

- ・九州地方での大会開催県3県と観光業者が連携して観戦者を対象に観光周遊のモデルコースを検討しているように、大会が開催される愛知県と静岡県と観光業者が連携してモデルコースを検討する。
- ・大会に向けて、人が訪れたいくなるような「ワクワク感」を創出する各種PRを早期に、かつ継続的に実施する。

(4) 意見

新たに検討されている活動内容があるものの、福岡市は国際規模、全国規模の大会等が開催されていることや、今後も開催が決定しているなど、おもてなしや大会運営について、従来の実績や経験を生かしてラグビーワールドカップ 2019™に向けての検討が進められていると感じた。

## (2) 海外視察調査

今年度、委員 11 名が 2007 年にラグビーワールドカップの開催実績のあるフランス及び世界的に有名なスタジアムであるカンプ・ノウのあるスペインを視察した。

現地では、ラグビーワールドカップ開催にあたっての準備、国際的スポーツイベントに対する行政の関わり方、大会を契機にまちがどう変わったのか、また大規模スタジアムを生かしたまちづくりについてそれぞれの視点で取組などについて話を伺い、実際にスタジアムの内部、まちのにぎわいなどを現地に出向き自らの目で視察をした。

特に、フランスにおいて実施した、ラグビー連盟ラポルト会長をはじめ連盟関係者との意見交換会では、「大会開催にあたっては協会とまちの人たちとの協力は必要不可欠であった」「2007 年のラグビーワールドカップのレガシーはラグビー人口が 15 万人から 40 万人に大幅に増加したこと」といった意見が大変印象的であった。

また、現地視察したフランス最大のスタジアム「スタッド・ドゥ・フランス」はサッカー、ラグビー双方のワールドカップの決勝会場であり、世界的な大規模イベントの開催実績のあるスタジアムであるため、テロ等に対する安全対策、警備の面においては、国・県・各関係機関との連携、ガイドラインを作成し監視機能を強化するなど安全面での仕組みが構築されていた。特に有事の際は 7～8 分という短時間で全観客の避難誘導が可能であるとのことであり、大変感心させられた。

この他にも、フランス、スペイン両国とも世界的な大規模スポーツイベントの開催先進国であり、スポーツ及びスタジアムを生かしたまちづくりが地域とともに形成されていることを再認識した。

2019年のラグビーワールドカップを契機として、豊田スタジアムを生かし、地域と共にまちづくりを発展させることがこれからのレガシーであると考えます。

(海外視察報告書については資料として添付)



フランスラグビー連盟会長との意見交換



フランス最大のスタジアムスタッド・ドゥ・フランス



世界的に有名なカンプ・ノウスタジアム



モンペリエメトロポール議事堂で

## 5 中間報告における提言

本特別委員会の設置目的を踏まえ、平成 29 年度の調査研究結果として、5 つの調査研究事項から以下のとおり提言する。

### 1 多くの人を呼び込むための戦略

2019 年のラグビーワールドカップで来訪する豊田スタジアムでの試合実施国に向けて、現地に所在する豊田市関連の事業所などを通じた情報発信はもとより、7 割を占める国内来訪者を呼び込むために、京都市が行っている「クレームゼロ」を目指す取組を参考に、アプリなどを活用して既に来訪している方々からの意見を吸い上げるなど、リピーター増につなげる取組が必要である。また、近隣スタジアムと連携した取組も必要である。

(1) 近隣スタジアムと連携を密にして大会開催都市間の回遊を促す取組

(2) アンケートやアプリを活用した来訪者意見の吸い上げによる“豊田市磨き”

### 2 来訪者を迎えるための環境整備

整備を進めている Wi-Fi の面的整備の拡充や無料充電施設の整備が必要。また、海外宿泊者へは、様々なトラブルに対して通訳などの配置が困難なことが予想されるため、京都市が行っているオペレータ通訳の取組を参考に取組を進めることが来訪者へのおもてなしにもつながる。国内の来訪者に対しては、公共交通機関利用者へは会場までの案内表示、車両利用者へはパーク&ライド駐車予約システムの導入や地図などの事前情報発信により、渋滞や混乱のない運営につなげる。

(1) 豊田スタジアム周辺の道路施設等整備及び先進的な移動支援（FCV バス、Ha:mo、ウィングレット等）を活用した渋滞対策

(2) 駅からスタジアムまでの動線のインフラ（トイレ等）整備及びカフェや物販店舗の参入の推進

### 3 大会期間中の交流、おもてなし

海外視察での意見交換の際、豊田市の豊かな自然や祭りなどの歴史や文化を体感できるイベントを行うべきとの話があった。その情報を SNS などの媒体を通して世界に発信する仕掛けが必要である。また、神戸市が 2002 年サッカーワールドカップで行った「一校一国運動」や 2005 年の愛・地球博で本市も経験のある「市町村一国フレンドシップ事業」などボランティア以外にも多くの市民が関わることのできる取組を行うことが市民参加の裾野を広げることにもつながる。

(1) 豊田スタジアムでの試合開催国の食生活や豊田市の地元食材を通じた交流機会の創出と SNS などを活用した PR の強化

(2) ボランティア研修及び地域を巻き込んだおもてなし資質の向上

#### 4 大会を契機としたまちの魅力向上

大会開催中におこなったおもてなしや地域の歴史・文化を体感できる取組を継続して情報発信することで観光施策の拡充が期待できる。また、市内企業の最先端技術の展示や情報発信がさらなる企業連携やイノベーションにつながることで、豊かな自然の中にある日本のシリコンバレー<sup>※1</sup>とするような取組を進める。

(1) インバウンドにつなげる文化歴史、最先端技術を活用した観光の産業化と産業交流の創出

(2) 国内外へわがまちアスリートや伝統文化などのPRを通して人材の育成や発掘による地域の活性化

#### 5 大会を契機とした効果、施策

大会を契機として豊田市の文化歴史、産業等を世界に情報発信することで、スポーツイベントのみならず、MICE<sup>※2</sup>（マイス）誘致に高いポテンシャルを持つ都市としての評価を受ける取組を進める。さらに、大会のボランティアの取組がレガシーとなり、この先も継続して活躍できる体制を構築する。また大会後も豊田スタジアムに人が集う取組が必要である。

(1) 大会ボランティアが今後も活躍できる体制の構築

(2) スタジアムの更なる活用による稼働率の向上と市民の憩いの場の実現

※1 シリコンバレー…カリフォルニア州サンフランシスコのサンタクララ・パロアルト・サンノゼ地区の通称。谷(Valley)と呼ばれる盆地地帯に、半導体産業や大手コンピューターメーカー、ソフトメーカー、ハイテクベンチャーなどを中心としたIT企業、研究所や関連企業が密集しているため、半導体の代表的な素材であるシリコンにちなんで名づけられた。アメリカの情報・通信産業のメッカ。

※2 MICE(マイス)…企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称。

## 6 むすびに～次年度への展開～

平成 29 年 5 月に継続して設置された「豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会」は、11 名の委員で 2019 年に開催されるラグビーワールドカップを契機としたまちづくりについて調査研究をおこなってきました。

海外視察では、平成 29 年 9 月市議会定例会終了後に 2007 年にラグビーワールドカップを開催したフランスを訪問し、その運営手法や国を挙げてラグビーワールドカップを通して戦略的にラグビー人口増加につなげたレガシーの成果と、大会後のまちづくりにどのように生かしてこられたかについても確認しました。スペインでは、世界屈指のサッカーチームバルセロナのホームスタジアム、キャンプ・ノウを訪問し観光においても、スポーツはもとより近隣自治体との連携、公共交通整備事業などの取組、さらにバルセロナオリンピックを契機として健康志向の醸成や、歴史的・世界的建造物を活用した観光客誘致手法を学ぶことができました。この海外視察では、豊田市独自のポテンシャルの高さを国際大会を通して、さらなる大会の機運醸成につなげ国内外への情報発信を早急におこないインバウンドの誘客につなげる重要性を再認識しました。

国内視察においては、京都市、神戸市、福岡市を視察し経験値の違いに大きな差があること実感しました。しかし、その差を手法により豊田市の独自性と捉える視点もあると感じることもできました。ラグビーワールドカップ 2019™の大会会場として 11 月 2 日に対戦カードが決定し、来訪国への対応準備や大会成功に向けたさらなる機運の醸成など、特に組織委員会から提示されるハード・ソフト両面の迅速な取組が求められます。現在おこなっている Wi-Fi や道路整備などハード面の整備を加速し、さらに市民へラグビーワールドカップ豊田市開催のアピールが今まで以上に重要であります。

また、他の大会会場においても豊田市同様にこの大会を契機として持続可能なまちづくりにつながるよう、それぞれの自治体で取組を進めております。私たちは「豊田市会場が一番良かった、とても楽しかった」、「また豊田市に行ってみよう」といっていただけるような取組につなげなければなりません。それぞれ現地現物で確認した内容をどのように豊田市らしく織り込めるのかを議会・議員として一人ひとりが当事者意識を持って、大会成功に向け何ができるのかを考えることが重要であります。

これで、半分である 1 年間の調査研究が過ぎようとしておりますが、さらに「スタジアムを生かしたまちづくり」に関して、幅広く議会として取り組むべきことがまだ残されているのではないかと感じております。大会が開催される 2019 年まで、残された期間は 1 年半あまりであります。次年度においても豊田スタジアムなどの関係機関との情報交換もおこないながら豊田スタジアムを生かしたまちづくりについて、引き続き調査研究に取り組みます。



# 【添付資料】

○平成29年度 海外視察報告書





平成29年度  
豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会  
海外視察報告書

日 程 平成29年9月26日（火）～10月5日（木）  
調査先 欧州（フランス・スペイン）

## 【目 次】

委員名簿	1
行程表	2
現地地図	4
今回の海外視察を通して	5

## 【視察報告】

①フランスラグビー連盟	6
②スタッド・ドゥ・フランス	8
③ユーラリール・新交通システム（VAL）	10
④スタッドピエール＝モーロワ	11
⑤キャンプ・ノウ	12
⑥Open Camp	13
⑦バルセロナ市内	14
⑧スタジアム・ミュニシパル・ドゥ・トゥールーズ	16
⑨エアバス本社工場	17
⑩スタッド・ピエール・アントワーヌ	18
⑪スタッド・ドゥ・ラ・モツソン	19
⑫モンペリエ観光局・市役所	20
視察を通じて豊田市に生かせる取組	22

# 豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会

## 委員名簿



委員長

山口光岳 (やまぐち こうがく)



委員

作元志津夫 (さくもと しずお)



委員

深津真一 (ふかつ しんいち)



委員

杉本寛文 (すぎもと ひろふみ)



委員

吉野英国 (よしの ひでくに)



委員

宮本剛志 (みやもと つよし)



副委員長

古木吉昭 (こぎ よしあき)



委員

太田博康 (おおた ひろやす)



委員

田代研 (たしろ けん)



委員

浅井保孝 (あさい やすたか)



委員

水野博史 (みずの ひろふみ)

随行職員 (ずいこうしょくいん)

豊田市議会事務局 副局長

伊藤勝介 (いとう かつゆき)

豊田市議会事務局 担当長

鈴木祥宏 (すずき よしひろ)

平成29年度 豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会  
海外視察行程表

日数	月日	地名	時間	視察項目
1	9月 26日 (火)	豊田市 中部国際空港 ヘルシンキ乗継 【パリ泊】	6:30 発 10:30 発	市役所発 中部国際空港発  パリ着
2	9月 27日 (水)	パリ サン＝ドニ  【パリ泊】	9:00/11:00  15:00/17:00	【視察①】 フランスラグビー連盟 視察・意見交換会 フランス国立ラグビーセンター訪問 視察終了後ラグビーセンター内で会食 【視察②】 スタッド・ドゥ・フランス スタジアム訪問 レクチャー 複合施設との共存、スタジアム運営、テロ対策について
3	9月 28日 (木)	リール  【パリ泊】	10:00/11:30  13:30/15:00	【視察③】 ユーラリール・新交通システム (VAL) ユーラリールのプロジェクト概要説明、現地視察 新交通システム (VAL) についてのレクチャー 【視察④】 スタッドピエール＝モーロワ スタジアム視察 レクチャー ホテル、レストラン併設施設のスタジアムであり 複合施設としての共存、世界大会時のスタジアム 運営について
4	9月 29日 (金)	バルセロナ  【バルセロナ泊】	14:00/15:00  15:30/17:00	【視察⑤】 カンプ・ノウ カンプ・ノウスタジアム及びミュージアム内の改 修計画関連展示の視察。日建設計スタッフによる 設計者選定までの経緯や計画の進捗状況 【視察⑥】 Open Camp バルセロナオリンピック競技会場の跡地の活用、レ ガシーについて
5	9月 30日 (土)	バルセロナ 【バルセロナ泊】	終日	【視察⑦】 バルセロナ市内視察 歴史建造物を利用したまちづくり
6	10月 1日 (日)	バルセロナ トゥールーズ 【トゥールーズ泊】	終日	移動日

日数	月日	地名	時間	視察項目
7	10月 2日 (月)	トゥールーズ カストル  【トゥールーズ泊】	9:30/11:45  13:30/15:00  16:30/18:30	<b>【視察⑧】 スタジアム・ミュニシパル・ドゥ・トゥールーズ</b> レクチャー スタジアム訪問 来訪者を迎えるにあたっての周辺環境整備について <b>【視察⑨】 エアバス本社工場</b> 工場見学、環境配慮の取組、ラグビーワールドカ ップフランス大会時の関わりについて <b>【視察⑩】 スタッド・ピエール・アントワヌ</b> スタジアム訪問 レクチャー 6歳～12歳までの子ども入場無料の運営方法、 子どもの育成に力をいれた施設について
8	10月 3日 (火)	トゥールーズ モンペリエ  【パリ泊】	11:00/12:00  14:00/15:45	<b>【視察⑪】 スタッド・ドゥ・ラ・モッソン</b> ラグビーワールドカップフランス大会開催時の市内 での取組について <b>【視察⑫】 モンペリエ観光局、市役所</b> 行政からみた世界規模のスポーツイベント時の取組 について
9	10月 4日 (水)	パリ ヘルシンキ乗継	終日	シャルルドゴール空港発  移動日
10	10月 5日 (木)	中部国際空港 豊田市役所	08:50 着 10:00 発 11:30 着	中部国際空港着  市役所着

# 現地地図

## フランス



リール  
9月28日  
■ユーラリール・新交通システム (VAL)  
■スタッドピエール=モーロワ

パリ、サン=ドニ  
9月27日  
■フランスラグビー連盟  
■スタッド・ドゥ・フランス

トゥールーズ、カストル  
10月2日  
■スタジアム・ミュニシパル・ドゥ・トゥールーズ  
■エアバス本社工場  
■スタッド・ピエール・アントワヌ

モンペリエ  
10月3日  
■スタッド・ドゥ・ラ・モツソン  
■モンペリエ観光局・市役所

## スペイン



バルセロナ  
9月29日、30日  
■キャンプ・ノウ  
■Open Camp  
■バルセロナ市内

## 今回の海外視察を通して

今回の特別委員会の視察先は、委員会の調査研究テーマをもとに、過去の視察先、世界情勢を視野に入れ検討した結果、フランスを中心とした欧州としました。その後、プロポーザル方式による5社からの提案を11名の委員で評価をして旅行社を決定し、視察先の調整を進め、平成29年9月26日から10月5日まで10日間の視察を実施しました。

今回の視察は、「ラグビーワールドカップを開催するにあたっての準備から大会開催を契機にまちがどのように変わったか、またスタジアムがまちづくりにどのように生かされているか」を視点に、2007年にラグビーワールドカップを開催し、成功をおさめた実績を持つフランスとサッカーが盛んでバルセロナFCの本拠地「Camp Nou」を有するスペインの両国を訪問しました。バルセロナでは、カタルーニャ州独立住民投票の影響を受けて視察時間を短縮せざるを得ない状況もありましたが、ほぼ予定通りの視察ができました。

12か所という視察先は、スタジアム中心であり、移動しながらの説明が多く、かなりハードであった感は否めませんが、多くの現地を直接目にし、また話を伺うことができ、百聞は一見にしかずのとおり大きな成果を得ることができました。

今回の視察において、ラグビーに限れば、歴史や伝統に加えラグビーに対する人々の意識が大きく日本とは異なることを、視察を行う中で身をもって感じました。市街地、郊外などスタジアムの設置場所は様々でしたが、スタジアムを生かした効果的なまちづくりや大きな大会を開催するにあたっての準備、管理・運営等のノウハウを調査研究することができました。

2019年のラグビーワールドカップにおいて、日本代表戦を始め4試合が豊田スタジアムで行われることにより、ラグビーの普及はもちろんのこと、大会の成功が本市の新たなまちづくりの契機となるまたとないチャンスであると視察を通して強く感じました。

最後に、今回の視察にあたり、視察を快く受けていただき懇切丁寧な対応をしていただいた諸団体、旅行社、また適切な通訳をしていただいた現地通訳等多くの皆様に感謝申し上げます。

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会

委員長 山口光岳

## ① フランスラグビー連盟

### 1 フランスラグビー連盟

連盟は1919年に発足。1978年にIRFB（国際ラグビー・フットボール評議会）に加盟。

2007年にラグビーワールドカップを開催し、常にフランス政府の支援を受けて、ラグビーの世界的なイベントを最も多く受入れている。

### 2 フランス国立ラグビーセンター

フランスラグビー連盟が入る国立ラグビーセンターは2002年にオープンしたラグビー総合施設である。4つの屋外ラグビー場に屋内ラグビー場をもちフィットネスルーム、プール、最新のスクラムシミュレーションマシンなどが完備された総面積42haの敷地には、フランスの古き良き時代を思わせる湖や散策道も残されている。フランスにはこのほかにもサッカーの国立センターも存在する。



フランスラグビー連盟会長ベルナル・ラポルト氏



広大な敷地の国立ラグビーセンター



施設内には最新の設備が完備

### 3 2023年ラグビーワールドカップの招致活動

フランスは、10年間で21ものスポーツの国際大会を開催した実績を持ち、世界でもっとも豊富なスポーツイベントの経験をもつ国の一つとなっている。これら豊富な実績のもと、フランスは2023年のラグビーワールドカップ開催国として決定した。

#### (1) 既存の最新式で知名度のあるスタジアムを利用

9つの会場のうち、8つが2016年UEFA欧州選手権の会場として選定されている。

また、そのうち5つが新スタジアムである。

#### (2) フランスの収容能力を利用

- ・ 質の高い宿泊施設
- ・ 質の高いスポーツインフラ
- ・ 世界に類を見ない交通網

#### (3) 経済効果

海外からの訪問客45万人、直接的な経済効果11億2,400万ユーロ、追加の税収1億1,900万ユーロ、雇用創出1万7千人、海外へのチケット販売100万枚、総合的な経済効果23億9,500万ユーロ。





フランスラグビー連盟職員より説明

#### 4 ラグビーワールドカップ 2007 で得たもの

##### (1) ボランティア

ボランティアの確保は、協会が国全体で募集。その結果 6,000 人がボランティアとして大会を支えた。現在でもそのとき組織されたボランティアが活躍を続けている。

##### (2) ラグビーの競技人口

12 都市で試合を開催し、地方を含め各地域でラグビーの普及に努め、2007 年当時のラグ

ビー人口は5万人であったが現在では40万人と大幅増加したことは大きな財産となっている。

#### ●参考となる内容・提言等

海外から選手、家族、観戦者など多くの外国人が豊田市を訪れる。宿泊、食事、多言語対応のおもてなしなど経済的な収益確保につなげる戦略が必要である。また、ボランティアについて、高校や大学との連携、ボランティアプログラムの構築は参考すべき取組である。



フランス国立ラグビーセンターフィットネスルームにて

## ② スタッド・ドゥ・フランス

### 1 スタジアムの概要

- ・ 収容人員は可動座席込みで 80,000 人である。
- ・ サッカーフランス代表及びラグビーフランス代表のホームスタジアムであり、現在は代表戦の大半を当スタジアムで開催している。
- ・ 1998 年サッカーワールドカップ、2007 年ラグビーワールドカップの決勝戦の会場であり、現在のところ双方のワールドカップ決勝戦の会場となった唯一のスタジアムである。



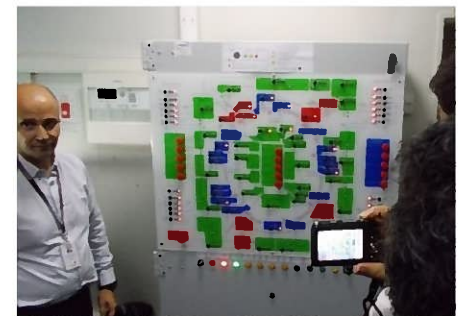
フランス最大のスタジアムの内観

### 2 テロ等の安全対策

- ・ フランスでは 2006 年に 11 章 33 か条から構成されるテロ対策法が制定された。
- ・ 危機管理体制として、国家警察、地域警察、憲兵、消防、医療機関、行政、鉄道関係者、スタジアム管理者など 1,200 名～1,400 名と 9 社の民間警備会社と連携し対策を実施している。
- ・ 危機管理体制は 5 週間前から準備し 10 日前にはチェックし万全の体制をとっている。
- ・ サッカー等のイベントでは、フーリガン等の対策として、駅やスタジアムまでの動線に設置されたカメラでのチェックや、スタジアム入場時の身体検査を実施している。また、この検査は 5,000 人～7,000 人のスタジアム関係者も同様にチェックされる。
- ・ イベント開催中も、テレビカメラでのフーリガン等の不審者チェックと館内の担当者と連絡を取り監視している。
- ・ 観客席からの避難誘導は混雑を避けるため 80 箇所の出入り口から誘導している。また、各階層の出入り口は独立しており、他の階層の観客と交わらずに避難できる構造になっているため、会場からの移動は 7 分から 8 分で可能となっている。
- ・ スタジアムに医師 5 人、看護師 8 人、救急車 5 台を配置し、消防とも連携をとっている。



セキュリティ監視システムの説明



緊急時の観客誘導について責任者から説明

### 3 市民参加による盛り上げ手法

大会に合わせ、史跡めぐりなど観光誘致につなげる事業を実施している。

### 4 運営に係るボランティア体制

- ・ 大会運営は基本的にはビジネスであり、事前に前科等を調べた上で許可された者しか働くことはできない。一つのイベントで約 5,000 人～7,000 人が働いている。また、世界的な大会は、大会の運営委員会でボランティアを募集している。
- ・ 駅などで英語でのガイドを実施している。



スタジアム運営について担当者より説明

## 5 複合施設との共存及び運営、効果

- ・年間 20 のイベントを開催しないと収益につながらない。商業税として 200 万ユーロを納めていて負担となっている。
- ・大きな収入源になっているものは、サロンの使用料やシーズンシートの販売であり、企業が購入したり企業に貸したりしている。
- ・スタジアムができたことにより、市民に誇りが生まれた。

スタジアム周辺の企業誘致を成功させ、オフィス街が形成された。このことでスタジアム周辺の場所が有名となり、現在観光誘致の機運が高まっている。

## 6 世界大会時の交通機関、移動方法、駐車場整備

公共交通機関が主であるが、危機管理のためには徒歩での移動が良い。駐車場は約 5,000 台の駐車が可能。

## 7 多目的使用する際の芝生の管理方法

- ・ヨーロッパは日照時間が少なく芝生が育ちにくい環境のため、<sup>※</sup>ハイブリッド芝を使用している。
- ・コンサート等をサッカーのオフシーズンで実施している。

## 8 市民とのスポーツ振興の共働事業

子どもを対象にサッカー観戦等を無料で実施するとともに、ピッチを利用して大会等を通じて育成に上げている。



スタジアム運営担当者

## ●参考となる内容・提言等

- ・テロ対策や事故防止のための規定の作成が必要である。
- ・テロ対策やスタジアム内外の混雑防止のため、豊田市駅からスタジアムまでの来場者の動線に合わせた防犯カメラの設置と監視体制の強化が必要である。
- ・ビックイベントでの渋滞対策、来場者のスムーズな移動のための交通規制、人の移動マニュアルの作成が必要である。
- ・来場者に対する観光への誘導を行うべきである。
- ・フランスでは過去のテロ体験から法律でテロに対する規定が作成され、その規定に基づき国と地方の警察、憲兵、地方自治体、鉄道関係者、スタジアム管理者が連携しながら対策を実施している。監視方法としては、鉄道駅からスタジアムへの動線での防犯カメラやスタジアム内のカメラを管理室で監視、異常が発生した場合はスタジアム内の担当者と連携し監視する仕組みが出来ている。また、入退場での扉の開閉についても混雑や事故防止に対し研究されコントロールされている。本市においても、こうしたシステムを構築する必要性を感じた。

※ハイブリッド芝…天然芝と人工繊維または人工芝を組み合わせた芝。総天然芝よりも強く地盤に根を張り、耐久性が増すとされている。

### ③ユーラリール・新交通システム

#### 1 都市開発の経緯

- ・1970年代まで繊維、化学、鉄鋼の盛んな地域であったが、海外からの安い製品に圧迫され衰退し失業率も上昇していた。そこで、ヨーロッパ各地との距離が近いメリットを生かし、新幹線の駅を建設した。それにより、ヨーロッパの大企業が進出するようになり、雇用も生まれたため、市民がこの開発、変革を高く評価している。
- ・フランス北部地域の産業の遅れを解消するため、国の予算でリールを中心に計画した。また、周辺市町村との交通システムを実行するために、メトロヨーロッパ「MEL」を立ち上げた。(MEL=80の市町村が集まって形成された広域連合)・開発地区は、元々の軍用地を、MELが半額で買取、開発後に元値でプロモーターに売却した。その売却益が、MELの利益になるシステムである。
- ・130haの広大な地域を3地区に分け、エリアごとに段階的に開発が行われた。全体計画をレム・コールハースが担当し、個々の地区、建物は異なる建築家が担当している。街区の中心部をTGVが直線的に通過する野心的なプロジェクトで、計画の主要建築物として、2万㎡のホールを内包するコングレスポをOMAが設計し、店舗やホテル、集合住宅の複合施設であるユーラリールセンターをジャン・ヌーヴェル、駅の上を跨ぐように建てられたオフィスビル、リヨン・クレジット・タワーをクリスチャン・ド・ポルザンパルクが設計し、それぞれ94年のユーロスター開業時期に前後して完成している。



デザイン性に優れた建物が並ぶ



リールの新幹線駅ホーム

#### 2 交通施策

- ・交通網については、地下鉄2路線、路面電車2路線、60の地下鉄の駅と細かなバス路線があり、リールの中心にTGVの駅がある。
- ・リールの中心市街地に一般マイカーを乗り入れさせないため、駅に電気自動車、自転車用のステーションが設置されている。

#### ●参考となる内容・提言等

中心市街地へ一般マイカーの乗り入れをさせないためのレンタル用の電気自動車、自転車ステーションの設置は、2019年のラグビーワールドカップや今後の本市の中心市街地構想の参考となる取組であった。



都市開発の概要について担当者より説明

※TGV (train grande vitesse) …フランス国鉄が運行する高速鉄道

※OMA (オフィス・フォー・メトロポリタン・アーキテクチャー) …著作、建築、都市などジャンルを超えた創造活動を行う建築家組織

## ④スタッドピエール＝モーロワ

### 1 スタジアムの概要

老朽化していたスタジアムの改築を断念し、欧州サッカー連盟の指定するスタジアム基準に達するため、新スタジアムが建設された。2012年に完成した「スタッドピエール＝モーロワ」は、最大収容能力が50,186人、グラウンドは可動式であり、サッカーの他にラグビー、テニス、アリーナ、コンサート会場として多目的に使用できるスタジアムである。



多目的利用が可能な最新設備のスタジアム

### 2 運営と取組

サッカーチームのLOSCリール・メトロポールの新ホームスタジアムとして、サッカーの試合を行う他に、大規模なイベントを年間20回実施する目標を掲げている。ピッチが可動式のため30,000人収容可能のヨーロッパ最大アリーナとなる。大型イベントの準備、運営をやすくするため、屋根の開閉所要時間は20分と早く、芝の移動、観客席の設置は24時間で完成する。また、スタジアム周辺にはホテル、レストランなどが隣接し、来場者が楽しく1日を過ごす事が出来るよう取り組んでいる。



スタジアムスタッフより運営概要及び取組の説明

### 3 危機管理体制

危機管理は、警察、消防、医療、主催者や自治体が危機管理室に集まり、有事の際には迅速に対応が出来る体制で臨んでいる。場外には監視カメラが設置してあり、1～2km周辺の情報を危機管理室にて把握をしている。

### ●参考となる内容・提言等



観客席を利用しスタジアムの施設概要の説明

- ・試合がない時のスタジアムの活用として、企業へ貸し出し、会議や商談・イベントに活用している点は参考となった。
- ・コンサートなどのイベント時において、スピーカーが屋根に設置されており、巨大なスピーカーを設置する必要がないなど、設計に工夫がされており、今後本市のスタジアムを改修する際の参考となった。
- ・スタジアムの周辺に、オフィスビルも建設予定となっている。豊田スタジアム周辺にも複合施設や駐車場の整備が必要であると感じた。

## ⑤カンブ・ノウ

### 1 スタジアムの概要

- ・FCバルセロナの所有するサッカー専用スタジアムで、収容人数は99,354人で欧州最大の規模である。
- ・1982年サッカーワールドカップでも使用されUEFAが選定するスタジアムのレベルも最高クラスとなっている。
- ・スタジアムには、FCバルセロナの選手やクラブの歴史を彩った博物館とショップが併設され、観光名所として試合のない日にも多くの観光客が入場料を払って訪れている。
- ・スタジアム内には、ロッカールーム横のチャペル、来賓席、VIPラウンジ、プレスルームの他、3階には192の記者席、2つのテレビ局ブース、28のラジオ放送席が設置されている。



世界有数の巨大スタジアムの内観

### 2 交通アクセス

公共交通機関としては、地下鉄、市バス、タクシーがある。一番便利である地下鉄は、4つの駅が最寄の駅となり、どの駅からも徒歩約10分の距離となっている。

### 3 セキュリティ対策

スタジアムの入場口では警備員による持ち物チェックが行われる。基本的にはかばんの中を目視によりチェックする。また、以下のものは持ち込みが禁止されている。

- (1) ナイフ、ピストル、その他凶器とみなされる物
- (2) 花火、発炎筒
- (3) ドリンク 500ml 以上、缶ジュース
- (4) レーザーポインター
- (5) アルコール並びに麻薬
- (6) 500gを超えるもの



スタジアムスタッフからの説明

### 4 今後の展開

2014年1月に老朽化に伴う全面改築が発表され、建て替え、移設はせず、105,000人規模の屋根付きスタジアムに改築される。総工費は6億ユーロとされ、2021年に完成予定である。なお、2016年3月の設計競技コンペの結果、日本の日建設計が選ばれた。



改修後の新カンブ・ノウの模型

### ●参考となる内容・提言等

スタジアムとして利益を上げる取組を多くやっていた。また、スタジアム内にある博物館では、スタジアム、チーム、選手の歴史が展示されており、豊田スタジアムにもスタジアム、選手の歴史を展示し、試合のない日でも多くの人が集うスタジアムにしていかなければならないと強く感じた。

## ⑥Open Camp

### 1 施設の概要

1992年のバルセロナオリンピックで使用された競技会場を利用した、様々なスポーツの魅力、楽しさを味わえるテーマパークである。市民や観光客が多数利用し、スペイン、バルセロナのスポーツ振興の一翼を担っている。

### 2 オリンピックの効果と終了後の環境

- ・市民の健康維持に対する関心度の向上にスポーツが大きく関わっている。
- ・オリンピックを契機にスポーツ人口、スポーツイベントが増加した。学校教育現場において

は新たなスポーツ種目を取り入れ、スポーツを通して市民の連帯感が高まった。また、指導者の育成に力を入れており、協会の指導者を学校へ派遣し教師を指導するなど、あらゆる競技に対する入口を確保し、それぞれの段階に合わせた育成環境が整備されている。



メインスタジアムスタジアム内に設置の施設全体図



施設責任者から運営・取組についての説明

### 3 施設の維持管理運営

- ・スポーツ施設の管理について市の直営施設は2施設あり、民間会社と同様な方法で貸し出しが行われており、経営は黒字である。60施設は民間運営で、入場者の多少はあるが良好な経営状況である。
- ・施設利用は会員制であり、市民の約2割である20万人が会員となっている。オリンピック種目のあらゆるスポーツ施設が完備されている。

### 4 障がい者への対応

施設はエレベーターを設置するなどバリアフリー対応となっている。また、高齢者や障がい者は割引料金となっている。パラリンピックの開催により市民意識が向上している。

#### ●参考となる内容・提言等

- ・オリンピックや世界大会の開催により、市民のスポーツによる健康維持に向けた意識の向上につながった点、生涯スポーツとしてのスポーツに関わる人口が増加した点、また、バルセロナの魅力ある観光資源を活かし、スポーツと観光のセットで市の財政に効果を生み出している取組などが参考となった。

- ・ラグビーワールドカップ2019™を契機に、ラグビー文化が醸成されていくためには、スポーツと健康をセットにした施策の展開、学校教育現場と連携した指導者育成や選手育成の推進が重要であると感じた。



バルセロナオリンピックのメインスタジアムスタジアム

## ⑦バルセロナ市内

### 1 歴史的建造物を生かしたまちづくり

サグラダ・ファミリアの二代目建築家アントニ・ガウディによる建築物であるカサ・ミラやグエル公園など、市内に歴史的建造物が点在し観光スポットとして集客につながっている。中でもサグラダ・ファミリアの観光収益は年間約5億円である。本来、教会の見学は無料であるが、現在も建設中であり建設費用への寄付として入場料を集めているためである。建設期間がガウディ没後100周年目の2026年に完成予定となっている。



世界遺産のサグラダ・ファミリア

### 2 交通インフラ整備

バルセロナ市の面積は102k m<sup>2</sup>で路面電車が南北に張り巡らされ国鉄は地下に配置されている。道路は、歩道と自転車道と車道に区分され、道幅を確保するため一方通行が多い。自転車通行空間の距離は約150kmでありシェアサイクルが実施されている。



歴史的建造物が残る街並

### 3 ジェントリフィケーション問題（地価上昇問題）



住居は口の字型に区画され中央が共有空間

- ・バルセロナは、着実な都市再生と歴史的建造物再生、さらには、地中海に面した温暖な気候からシニア層やクリエイターなどの移住者が多い。また、カタルーニャ工科大学など大学等も配置されている。セカンドハウスが4割で、そのうち3割が外国人である。賃貸は200m<sup>2</sup>で月6万円から10万円程度。持ち家率は8割である。
- ・大きなアパート、マンションの多くは1階が店舗、2階は事務所などで住居は3階以上となっている。街は高齢者の生活を守るために、一周400mから500mのエリアに薬局、雑貨屋、食料品店、理・美容店など日常生活の上で必要なものはほぼ配置されている。こうした環境から、シニア層やクリエイターや学生、さらには企業が多く集まることにより地価の上昇となっている。

### 4 環境への配慮

- ・交通としては、公共のレンタサイクルが充実、通勤、通学は約15分程度、道路も自転車専用道路が配置されている。また、使われなくなった闘牛場をデパートとして使用したり、古い銀行をファッションブランドショップにしたりと様々な環境へ配慮した整備が行われている。



整備された自転車専用道路

- ・ごみの分別は一般家庭ごみ、有機性廃棄物、紙・ダンボール類、ビン・ガラス類、プラスチック・アルミ・缶類と5つに分類している。また、粗大ごみは毎週木曜日に家の前に出すだけで回収と分別が行われている。



## 5 観光プロモーション

バルセロナ観光局が設置され、ホームページなどでイベントなどプロモーションを含め広く広報活動を行っている。しかし、現在はあまりにも観光客が多くなり過ぎたことが課題となっている。

## 6 喫煙場所など来訪者配慮への整備

室内は禁煙であるが、屋外は喫煙可能であり、ごみボックスと一体で灰皿が設置されている。なおバルセロナでは女性の喫煙者が増加している。



市内には多くの歴史的な街並みが残る



市街地を歩きながら説明を受ける

### ●参考となる内容・提言等

- ・古い建築物を利用し、内部のみ用途に合わせたリノベーションや都市部での自転車利用促進、さらに、500m 圏内で生活に必要なものが配置され、高齢者に優しい都市づくりがされている。そのため、アパートやマンションの1、2階部分の規制など独自で実施しており、豊田市における地域拠点核のまちづくり形成の参考となった。
- ・歴史的建造物やアントニ・ガウディを始めとした建築家や画家などの歴史的人物、リノベーションによる古い町並みの保存と近代的建物をうまく融合した歴史と文化のまちバルセロナと豊田市とは一概に比較はできないが、目指す方向性など大変参考となった。さらに、500m 圏内の行動範囲で日常の生活が可能である高齢者に優しいまちづくりは、今後の高齢化社会の中で参考となった。
- ・自転車を活用した移動手段で都市部の環境や交通渋滞の緩和につなげている点は、豊田市の中心市街地のあり方として参考となった。



ゴミの分別・集積場所

## ⑧スタジアム・ミュニシバル・トゥールーズ



客席の色に特徴のあるスタジアムの内観

### 1 スタジアムの概要

フランス・オート＝ガロン県トゥールーズにあるスタジアム。ラミネという中洲にあり、緑が多く、市民の散歩地である。完成は1937年。収容人数は35,472人。スタジアム・ミュニシパルは「市営スタジアム」を意味する。サッカーのトゥールーズFCの本拠地として、またラグビーではTOP14のスタッド・トゥールーザンも時折使用している。サッカー日本代表が史上初めてサ

ッカーワールドカップ本大会の試合を行ったスタジアムでもある。

### 2 取組、経緯

- ・1994年の改修工事で、木造からコンクリート造りとなった。1998年サッカーワールドカップフランス大会のため大きな拡張工事が行われ、レセプション会場やVIP席3,000席が設置され、その後も2014年にはレセプション会場の増設や、2016年のサッカー欧州選手権大会に向けて座席の改修が行われ、一般観客席を42,000席から33,500席に減らし、マスコミ席を多く設置するなどレセプションを重視した改修が行われた。
- ・観客誘導については、観客が試合開始2時間前から来場するため、橋では車を封鎖し、地下鉄を増発させた。また、試合終了後路面電車の駅で一番近い駅を閉鎖し、隣駅まで徒歩誘導させる取組を実施している。
- ・障がい者対応では、「ブルーバッジ」を発行し、スタジアム近くまで車で来られるようにしている。座席についてはスタンド前席に車いすスペースを設置し、目の不自由な方へはイヤホンの貸出も行っている。



十分にスペースを確保した車いす専用席

### 3 サッカー欧州選手権2016の取組

- ・大会の効果について、ヨーロッパサッカー連盟全体で利益は12億6,000万ユーロ、来場者数はサポーター242万人、ファンゾーン650万、2万人の雇用が創出された。
- ・大会の目的は地元のPR、市民にとって大きなお祭りになること、またセキュリティが確かで安全なイベント、経済、社会的効果の望めるイベントであることとした。
- ・ファンゾーンについては、スタジアムと駅から3km以内に設けることとした。

### ●参考となる内容・提言等

- ・障がい者席の対応では、特別席を設置し、席までの誘導方法について配慮されている点は参考となった。また、レセプション会場のスペース確保とおもてなし方法は検討する必要がある。
- ・パーク&ライドを確立し中心部に渋滞が起きにくい取組がされていた。また、ファンゾーンとファンウォークとスタジアムの3か所に人が集まり楽しむ場所を作ることの重要さとファンゾーンにおけるセキュリティの必要性は参考となった。
- ・大きな大会時は最寄駅の使用を禁止し、一つ隣の駅まで歩いてもらい観客の協力により出入りをコントロールしている点は参考となった。

## ⑨エアバス本社工場



広大な敷地にあるエアバス本社工場

### 1 エアバス社の歴史

エアバス社は、1970年にフランスとドイツによる企業連合として設立され、その後、スペインとイギリスが加わり国境を越えた欧州の4か国が得意分野をすみ分け、航空機産業に参入した。アメリカ巨大航空機メーカーに競合できる体制を確立した他、航空会社や乗務員に、真の競争をもたらす利点を提供した。また、都市内の渋滞問題の解消の

ため、都市型飛行タクシーの実現化に向けたプロジェクトにも取り組んでいる。

### 2 トールーズ工場の企業観光

- ・フランス・トールーズの工場では、世界初の2階建て旅客機 A380 の組み立てラインがあり、企業観光を意識した見学ツアーがある。コースは3種類あり、世界から観光客が押し寄せている。

#### (1) AIRBUS DISCOVERY TOUR

世界で唯一の総2階建て旅客機 A380 について、デザインの段階から、実際に商業用航空機として世界を駆け巡るまでの裏側を知ることができる。

#### (2) PANORAMIC TOUR

エアバス社の敷地内を、バスに乗ってまわるツアー。本社や、パイロットのためのトレーニング施設、機体を組み立てる場所などを見学することができる。

#### (3) GREEN TOUR

飛行機は、実は環境に優しい交通機関。エアバス社が、どのようにして環境に優しい航空機を発展させたかを知ることができる。

### ●参考となる内容・提言等

- ・企業の生産ラインの見学による観光誘致は、本市においても実施を進めていく必要がある。大企業だけではなく、オンリーワンの技術を持った企業を紹介し、産業を世界に売り込むことが重要である。
- ・日本の産業も強化する事があれば、今後他国との連携や交渉も必要となる。
- ・エアバス社は、巨大企業として航空産業の若手育成にも協力をしている。本市も産業活性化のための人材育成に取り組む必要がある。
- ・未来の都市型飛行タクシー構想の取組は、本市は自動車産業を中心に発展して来た歴史があり、今後の中核的産業へ大きく影響を及ぼす技術革新となる。また、ものづくり創造拠点 SENTAN の施設の一部でカーティベーターが空飛ぶ車を開発しており、今後も注視していく必要性を感じる。



エアバスの代表的な旅客機「コンコルド」の展示



敷地内にはミュージアム、ショップも併設されている

## ⑩ スタッド・ピエール・アントワヌ

### 1 スタジアムの概要

- ・35歳で早世したレジェンドの名を冠した収容人数10,000人ほどの天然芝のスタジアム。1999年にはラグビーフランス代表とルーマニア代表のテストマッチが開催された。2014年より子どもがラグビーへの情熱を持ち、家族で気軽に観戦できるように6歳～12歳までの子どもの入場料を無料にしている。
- ・ラグビーチームのカストル・オリムピックのホームスタジアムで多目的トレーニング施設を併設し選手育成を行っている。



住宅地に隣接地元と密着したスタジアム



カストル・オリムピックの会長から説明

### 2 大会運営・安全対策

- ・テロ対策など安全面への対策は、大会の約40日前から準備をしている。観光客、ファンを対象にセキュリティ、衛生面、偽チケットなどの詐欺について対応。またテロ対策については、ファンゾーンに集約させており、監視カメラや警備員で監視している。ファンゾーンには2つの大型スクリーンを設置しており、観光客や来場者の滞在時間を長時間確保する為、ハーフタイムや試合前のイベントを充実させている。また飲食の販売やパーティールームもしっかり整備されている。
- ・スタジアムは住宅地に隣接しており住民との良好な関係を構築し、諸問題が起きないように「おもてなしの心」に主眼を置き、自治体とラグビーチーム関係者、市民が一体となって安全対策に取り組んでいる。

### 3 チケット販売

- ・年会員の前売り券をパートナー企業が購入し、若年層への販売のため、インターネットでの販売、広告やイベントでのPRに積極的に取り組んでいる。
- ・子ども入場料については、基本的に立見席を無料にし、座席確保時には30%割引となる。若い人をターゲットにウェブ販売のイベントを行い誘客することにより、インターネット販売は前年の10%～20%から50%となった。



地元新聞に本委員会視察記事が掲載

### ●参考となる内容・提言等

- ・スタジアムの多目的スペース活用として、試合の無い日に企業に部屋を貸し出し来場する機会を創出している。企業の会議や、商談、イベントなどに活用されており、スタジアムをより身近に感じることができる取組がされている。
- ・南仏地域の根強いラグビー人気を伝統文化へと醸成し、地元サポーターとクラブの良好な関係を形成し、地域住民、教育現場との積極的な交流がされていることなど参考となる取組であった。

## ⑪ スタッド・ドゥ・ラ・モッソン

### 1 スタジアムの概要

- ・スタジアムは、モンペリエとその周辺市町で構成する、モンペリエメトロポール（コミュン間協力公施設法人）が所有する。また、施設の通常の整備と管理をメトロポールが行い、試合開催時には、警察、消防、メトロポールの職員が来て、打合せをしながら運営をするが、クラブ側が警備体制も含めた全ての会場のとりまとめを行う。



ピッチの管理について説明

っているが、駐車場が3,000台しかなく不足している。

### 2 スタジアムの運営

メトロポール（コミュン間協力公施設法人）が施設の管理と整備を行い、クラブ側はサッカーとラグビーのホームゲームを中心にスタジアムの運営を行い、収益を上げることでメトロポールに還元している。

### 3 ボランティア

通常のサッカーの試合時には、専門の警備関係者が400名前後配置され、観客に飲食を提供する飲食関係者が100名、ボランティアはサッカークラブ関係者約30名から40名で、対戦チームの受入からサポート等、会場内で試合の開催を支えている。



ファンゾーンについて説明

### ●参考となる内容・提言等

比較的規模の小さなスタジアムであるが、サッカー、ラグビーの専用スタジアムとしてしっかりと行政側が整備し、クラブチーム側が責任を持って運営管理していた。周辺住民の理解もあり、スポーツ文化の拠点となっていると感じた。



スタジアムの管理・セキュリティーについて説明

- ・モンペリエには大きなスタジアムが二つあり、一つが32,950人収容で、サッカーのホームグラウンドとなるスタッド・ドゥ・ラ・モッソンで、もう一つは14,700人収容でラグビーのホームグラウンドとするアルトラッド・スタジアムである。ただし、ラグビーの大きな試合の開催時には、スタッド・ドゥ・ラ・モッソンを使用する。
- ・会場への交通手段は、トラム、市内バス、自家用車とな



運営について職員からの説明

### 4 ファンゾーン

2007年のラグビーワールドカップの際には、市内中央のコメディー広場がファンゾーンとして開設された。サッカー一場12個ほどの大きさで、真ん中に大きなスクリーンが置かれ、周りには飲食できるブースが並んだ。開催期間中はモンペリエで試合のない時も他会場の試合が見られ、1か月半くらい開設されてにぎわっていた。

## ⑫モンペリエ観光局・市役所



モンペリエメトロポール（コミュニケーション協力公施設法人）

### 1 都市の概要

フランスで8番目に大きく約25万人が住んでいる。周辺31自治体でモンペリエメトロポール（コミュニケーション協力公施設法人）を形成。都市型観光地であると同時に大学都市としても知られるモンペリエは、ミシュラングリーン・ガイド・ブックの三つ星を得て「最も訪れる価値のある」観光都市と認められる。2007年ラグビーワールドカップの開催都市であり、

2019年には女子のサッカーワールドカップを開催予定である。

### 2 世界規模のスポーツイベント実績

- ・モンペリエはパリに次いで、国際的なスポーツイベントが多い街である。
- ・2015年のバスケットボール欧州選手権ではフランスとフィンランドの試合を実施。家族とサポーター数百名に対しフィンランド語を勉強し受け入れた。
- ・1998年サッカーワールドカップ、2016年ツールドフランスの開催実績がある。
- ・2019年FIFA女子ワールドカップがフランス開催決定。7・8月頃、ドイツ、スウェーデン、オランダの観光誘致、ファミリー層にスポーツ観戦と観光のパッケージで誘致を進める。

### 3 スポーツへの取組

スポーツでまちを豊かにするという考えの下、中長期的に取組を行い、22のプロスポーツチームに年間1,200万ユーロの支援を実施している。ラグビーやハンドボール、ゴルフ、バスケットなど大会を通じてスポーツツーリズムによる経済効果へつなげている。2016年のツールドフランスではスタートとゴールを誘致し、50万人の観戦者数で1,500万ユーロの経済効果があった。また、昨年のラグビーの試合は17試合開催され、1,600万ユーロの経済効果となった。



モンペリエメトロポールのカンタリーチーフと

### 4 ラグビーワールドカップ2007の取組

- ・モンペリエでは7試合を開催。キャンプ地としてオーストラリアの選手が滞在し、練習、宿泊をしたため、公開練習の実施など地域の人とのふれあいの創出や、滞在国への積極的な宣伝をにより、モンペリエの効果的なPRとなった。
- ・ファンゾーンは大会主催者側から大きさ等の指定があり、決められた通りに提供。また、試合の対戦カードにより集客が違うため、チケットは人気のある物とそうでない物を抱き合わせて発売した。
- ・スタジアムとファンゾーン周辺500m以内には防護柵を設置し、チケットを持った人のみ入場許可とした。
- ・国全体でボランティアを募集し、チームを迎えること、選手の世話、運営サポート、セキュリティ、飲み物の提供、ラグビー教室の開催、ファンゾーンの誘導等を担当した。



担当職員から取組について説明

## 5 情報発信の取組

- ・メディアを取り込んだでの情報発信では、イタリアのサッカーチームに同席したメディアや新聞記者に対してモンペリエの街を案内し、PRをお願いし、自国での放映を依頼した。
- ・ラグビーワールドカップ開催中にはホームチームの近くに宿泊している、家族やファンと選手の近さをアピールし、地域住民と選手のふれあいを目的とした公開練習を行った。世界規模の大会では大会そのものを情報発信することがまちのPRとなる。
- ・2019年の女子サッカーワールドカップ開催に向け、ドイツなどスポーツ先進国へ家族向けパッケージツアー情報を展開している。

### ●参考となる内容・提言等

- ・スポーツを通じた、観戦者や家族・サポーターへのおもてなしとして、滞在型の観光への取組が経済効果へと波及することから、2019年を機にスポーツツーリズムの取組を提言したい。また、本市は多くのトップチームを有することから世界的なスポーツ大会の誘致を引き続き積極的に実施する必要がある。
- ・モンペリエは歴史的な建造物やモンペリエ大学の所在地でもあり、学園都市としても有名である。そうした、環境を生かし世界的なスポーツ大会を誘致し、観光を戦略的に取り組んでいる。観光誘致にあたっては、世界大会が開催される現地に来られず、テレビで応援している人たちにも、開催地の産業や歴史・文化をPRし、好印象を伝えることで将来の観光へつなげることのできる戦略的な取組も必要と感じた。



モンペリエメトロポール（コミュニケーション協力公施設法人）の議場にて

## 視察を通じて豊田市に生かせる取組

### ■ 海外視察テーマ ハード面【国際的な観光・交流都市としてのまちづくり】

#### (1) 大会会場の整備

- ・組織委員会のニーズに迅速かつ柔軟に対応
- ・スタジアム、ファンゾーンにおいて豊田市の文化を紹介
- ・大会での混雑やテロを想定した防犯カメラの整備

#### (2) 都市整備

- ・渋滞緩和に向けた道路ネットワークの整備
- ・来訪する外国人が会場まで迷わず行くことができる案内サインの整備
- ・試合当日のバス・電車の増便
- ・豊田市駅からスタジアムまで来訪者を楽ませるショップ、カフェ、歴史の展示

#### (3) 観光整備

- ・観光拠点をつなぐ公共交通の整備
- ・豊田市駅周辺で豊田市の文化を紹介できるブースの設置
- ・来訪する大会関係企業同士が交流できるイベントの開催

#### (4) 環境整備

- ・Wi-Fi など来訪者への通信環境の整備
- ・来訪する外国人の宿泊先の確保策の検討
- ・豊田市ならではの取組として燃料電池バス、Ha:mo RIDE の運行
- ・大会会場、会場周辺も含めキャッシュレス環境の整備

#### (5) 大会後の整備

- ・スタジアム及び公共施設の更なる利活用として、イベントの開催や市民の憩いの場とする取組
- ・スポーツイベント以外での利活用のための整備
- ・スタジアム周辺の都市開発

### ■ 海外視察テーマ ソフト面【国際的な観光・交流都市としての戦略】

#### (1) 観光施策

- ・観光拠点における飲食など来訪者が長時間滞在できる取組
- ・事前アンケートの実施により満足度向上につなげる取組
- ・パックツアーなど様々なニーズやターゲットを絞った戦略的な取組
- ・スタジアムでの試合国の食や豊田産食材の提供によるおもてなしの取組

#### (2) ボランティア

- ・既存のボランティア活動団体とのさらなる連携強化
- ・役割の明確化と研修会によるおもてなし資質の向上
- ・市民への積極的なPR
- ・観光やスポーツボランティアの育成と拡大

#### (3) 市民に向けた取組

- ・市民と共働で大会機運を高める参加型イベントの開催
- ・サポーターやスポーツクラブ会員拡充への取組



#### (4) 安全

- ・警察、消防など関係団体との交通規制を含めた連携強化の取組
- ・テロ及び災害時に観客を速やかに誘導できる訓練の実施
- ・防犯カメラなど不審者判別機能など質の高いセキュリティ体制の構築
- ・防犯カメラを有効活用した安全対策の確立
- ・外国人来訪者へ外国語の避難指示、アナウンスの実施

#### (5) P R

- ・市内企業など幅広いコネクションにより連携したP R活動
- ・試合開催国など来訪する国との文化交流の取組
- ・他の開催都市との連携強化
- ・テレビ観戦者を将来観光客とする取組

#### (6) 大会後のまちづくり

- ・スタジアムに係る運営体制を持続可能なものとなるような取組
- ・スタジアムが大会を契機にさらに市民が集まる憩いの場とする仕組み

#### ■ その他の取組

- ・スタジアムの利用拡大による維持管理費削減の取組
- ・中部国際空港や名古屋や他都市からの移動の簡素化
- ・アミューズメントを備えたテーマパークとしてのスタジアムへの改修